

司 式 熊 田 雄 二 牧 師
奏 楽 門 脇 陽 子 姉 妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 38 : 1.2 いさおなきわれを

いさおなき我を血をもてあがない イエス招きたもう みもとに我ゆく
罪とがの汚れ洗うによしなし イエスキよめたもう みもとに我ゆく アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)
罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 38 : 3.4 疑いの波も

疑いの波も恐れ of 嵐も イエスしずめたもう みもとに我ゆく
心の痛手に悩めるこの身を イエスいやしたもう みもとに我ゆく アーメン

共同の祈禱 祈禱書13 降誕節第六主日 主の変貌

主なる神さま、わたしたちの主イエスが、弟子たちを連れて高い山に登られたとき、あなたは聖なる栄光を、主の上にあらわし、「これは私の愛する子、これに聞け」と、天から命じられました。あなたは、受肉した神の言葉であるキリストが、律法と預言の成就であると宣言されました。それゆえわたしたちは、キリストの主権を喜びます。その栄光は、主が十字架に向かって行かれたときも、力強く輝いていたことを信じます。

(IIペトロ1、マタイ17)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 南アフリカ支援を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書5章12～16節 (新約聖書110頁)

説教・祈禱 「清くなれ」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 38:5.6 頼りゆく者に

頼りゆく者に救いと命を イエス誓いたもう みもとに我ゆく

いさおなき我をかくまで憐れみ イエス愛したもう みもとに我ゆく アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ

我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 66世をこぞりて

世をこぞりてほめ讃えよ み栄え尽きせぬあまつ神を アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

雨宮信長老

I 人里離れた所に退くイエス

「誰にも話すな」と主イエスは、癒された男に厳しく命じられましたが、マルコ福音書によると、「しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。」とあります(1:45)。そこでルカ5章15節「イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気を癒していただいたりするために集まってきた」のです。

しかし、イエス様は、本日の診察はここまでとして、「人里離れた所に退いて祈っておられ」ました。大勢の人を癒してあげることはおできになりますが、なさいませんでした。その理由は、もう4章で学びました。4章42節「群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れていかないようにと、しきりに引き止めた。」引き止めようとする人々は、自分たちの専属の医者になってほしいのです。しかし、主イエスは、病の癒しよりも福音宣教の言葉を語る使命の方を強調されました。43節「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならぬ。私はそのために遣わされたのだ。」奇跡的な病いの癒しのために遣わされたのではない。奇跡はメシアのしるしである(イザヤ35章)。いや、もっと大きな奇跡のために遣わされたのです。福音とは罪の赦しと新しい命の祝福です。そのために主イエスは、十字架と復活の道に向かって行かれました。

そして、このことを悪霊は知っているのです。大勢の群衆に人気が出ることを利用しようとし、4章で、汚れた霊に取りつかれた男を癒された時、悪霊はイエスの正体を知っているのです。「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」と言いました(34節)。イエスが「黙れ。この人から出て行け」と言われると、悪霊はその男から出て行きました。

また4章で、ペトロのしゅうとめが癒されたあと、人々が病人たちをイエスのもとに連れて来た時も、悪霊たちは「お前は神の子だ」と言いながら人々から出て行きました。そして、「悪霊は、イエスをメシアだと知っていたから」主イエスはものを言うことをお許しになりませんでした。

それでも悪霊は、イエスをお遣わしになった神の救いを妨害しようとし、大勢の人間が集まって来ることには、悪魔のワナがあるのです。

II 清められた病いの癒し

「重い皮膚病」は、口語訳聖書では「らい病」でした。しかし、「ハンセン病」と今日では言い換えられたこともあり、また聖書自体から何の皮膚病かはっきりしないので、「重い皮膚病」と言い換えられました。ここは、何の皮膚病かはっきりさせることが大事なのではなく、この記事が主イエスの祭司職であることを告げていることが大事なのです。ユダヤ人の「人々に証明」することによって社会復帰できることが大事なのです。ですから、「病気を治してください」ではなく、「私を清くしてください」。すなわち、宗

教的社会問題として「重い皮膚病は去った」のです。

病人が言った「御心ならばean thelees」の直訳は「お望みならば」ですが、それに対して主イエスは、「よろしいthelw」の直訳「私は望む」と言われました。すなわち、主イエスの御心・望みは、その人の汚れが取り除かれて、神にも人にも近づけるようになることでした。

「手を差し伸べてその人に触れ」ることは、通常のユダヤ人はしませんでした。日本でもハンセン病がらい病と言われていた頃は近づけませんでした。つまり、人間は伝染病が怖くて近づけないのです。今、私たちは、新型コロナウイルスの影響があるので分かりますね。お医者さんが防護服を着て、やっと感染者に近づけるのです。

何の心配もなく近づいて「手を差し伸べてその人に触れ」ることができるのは人間以上の存在です。このエピソードの直前に、人間をとる漁師の話がありますが、あまりの大漁にペトロが驚き畏れて「主よ私から離れてください。私は罪深い者なのです」と口走ったのも、主イエスに神を感じたからでしょう。

そして主イエスは、やはり「言葉で」癒しをなさいましたから、言葉なる神です。「神は言われた「光あれ」とすると光があった」。主イエスが「手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい、清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去った」のでした。

しかし、主イエスは厳しくお命じになりました。「誰にも話してはいけません。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたとおりに清めの献げ物をし」なさい。しかし、「彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた」のです（マルコ福音書）。祭司に体を見せ、モーセが定めた通りに清めの献げ物をしたのでしょうか。清めの献げ物の動物は、イエス御自身のモデルでした。主イエスが「世の罪を取り除く神の子羊」だったからです。

主イエスの祭司職としての癒しは、神の刑罰と関連づけられます。罪という病でありましたから、癒されるよりも清められる必要がありました。すなわち、イエスの十字架刑は、汚れたものを罰する神の恐るべき宗教行為です。ただ単に愛の神という甘い考えは、吹き飛んでしまいます。私たちは滅ぼされるべき汚れた罪人です。罪に対する神の恐ろしさを知らなければ、キリストの十字架を知ることはできません。罪は神の怒りに値することを知らなければ、十字架を通して表された神の愛を知ることはできないのです。

神はその独り子を十字架にかけるほどに私を愛してくださいました。神の独り子は祭司の働きによって、十字架の苦しみの中で執り成してくださいました。「父よ彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか分かっていないのです。」私たちは、自分の罪がキリストを十字架にかけたことを分かっていませんでした。

III 主イエスに期待すべきこと

私たちは、病気を治してくださいと祈るべきでしょうか。もちろん、祈るべきです。祈らずにいられません。しかしそれは、主イエスが第一に意図しておられることではないのです。このことを心得ないので、教会の歴史では悪魔払いさえありました。しかし、何をやっても、ついには死を迎えることから免れる者はいなかったのです。病いを担ってくださった主イエスは、私たちの罪を担ってくださったのです。この方を信じて、罪から清められることを、まず願いなさい。そうすれば、神の恐るべき刑罰から逃れて永遠の命を賜

ります。これが、福音書が語る神の愛です。神の愛は、神の刑罰の恐怖から解放するのです。

そこで病が治ろうが治るまいが、キリスト者はキリストのものです。病が治れば地上でなお生かしてお用いになります。治らなければ天に引き上げてそばにおいてくださいます。地上ではむしろ、治らない病や様々な苦しみによって信仰を学ぶことができます。地上で大事なことは、キリストが天から降って人間となられたのは、私の痛みを知って罪の病を担ってくださること、これを学ぶことです。十字架を思うことによって、信仰はキリストとの結合の深みを増し、罪の赦しは確かさを増していきます。そしてキリストに結ばれた者は、キリストの苦しみにも結ばれていることを学ぶのです。それは、復活の希望に続いて行きます。希望のない苦しみは絶望です。キリストに結ばれた者は、絶望から解放されているのです。

生涯、主イエスに結ばれた道を歩みましょう。召される時には、主イエスと同じように「父よ、我が魂を御手に委ねます」という者でありたいものです。ステパノと同じように「主イエスよ、わが魂を御手に委ねます」という者でありたいものです。